

四半期報告書

(第66期第2四半期)

自 平成26年7月1日

至 平成26年9月30日

すてきナイスグループ株式会社

(E02584)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

表 紙	頁
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) ライツプランの内容	6
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	7
(7) 議決権の状況	8
2 役員の状況	8
第4 経理の状況	9
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	12
四半期連結損益計算書	12
四半期連結包括利益計算書	13
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
2 その他	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月14日

【四半期会計期間】 第66期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 すてきナイスグループ株式会社

【英訳名】 Nice Holdings, Inc.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 日 暮 清

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四丁目33番1号

【電話番号】 横浜(045)521-6111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 大 野 弘

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四丁目33番1号

【電話番号】 横浜(045)521-6111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 大 野 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第2四半期 連結累計期間	第66期 第2四半期 連結累計期間	第65期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	124,623	104,830	270,622
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	△947	△1,787	1,890
四半期純損失(△) 又は当期純利益 (百万円)	△1,473	△1,744	1,030
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△901	△1,359	2,070
純資産額 (百万円)	40,530	41,596	43,905
総資産額 (百万円)	167,509	170,074	173,264
1株当たり四半期純損失(△) 又は1株当たり当期純利益 (円)	△15.39	△18.60	10.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	10.84
自己資本比率 (%)	23.2	23.2	24.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,326	△13,043	13,889
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,715	△2,749	△6,544
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,834	10,399	△1,579
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	29,933	24,221	29,267

回次	第65期 第2四半期 連結会計期間	第66期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純損失(△) (円)	△10.21	△7.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第65期第2四半期連結累計期間及び第66期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失が計上されているため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は、建築資材事業においては消費増税前の駆け込み需要の反動減や新設住宅着工戸数の減少、住宅事業におけるマンションの引渡し戸数が前年同期より減少したことなどから、1,048億30百万円（前年同期比15.9%減少）となりました。また営業損失は14億88百万円（前年同期は営業損失4億17百万円）、経常損失は17億87百万円（前年同期は経常損失9億47百万円）、四半期純損失は17億44百万円（前年同期は四半期純損失14億73百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 建築資材事業

建築資材事業では、お取引先様に「木材利用ポイント事業」、「地域型住宅ブランド化事業」や「住宅のゼロ・エネルギー化推進事業」などの国の施策に沿った対応を提案いたしました。また、14年ぶりに改正された省エネルギー基準への対応をスムーズに行えるよう「低炭素住宅標準仕様書作成」などのサポートメニューを刷新しました。

名古屋、仙台、福岡、大阪で開催した住宅資材の総合展示会「住まいの耐震博覧会」では、住宅の耐震化の推進、創エネルギー・蓄エネルギー・省エネルギーなどに関する最新技術やリフォーム情報などの紹介・提案を行うとともに、産地や樹種によって異なる国産木材の特長を活かした家づくりの提案を行いました。

木材販売では、流通の入り口である全国各地のプレカット工場への営業を強化するとともに、「公共建築物等木材利用促進法」に対応する、木造非住宅の建築にも取り組みました。また、本年5月より徳島製材工場（徳島県小松島市）が稼働・生産活動が始まり、木材事業の川上から川下までの一貫体制の構築および販売体制の強化を図りました。

これらの結果、本事業の売上高は841億3百万円（前年同期比5.4%減少）となり、営業利益は8億72百万円（前年同期比47.8%減少）となりました。

② 住宅事業

マンション部門では、当社グループの優位性を発揮できる横浜市、川崎市および仙台市等に販売地域を集中し、地震に対して安全・安心な「免震構造」あるいは、耐震強度が建築基準法の1.25倍である「強耐震構造」による商品を提供しています。当第2四半期連結累計期間におけるマンションの売上計上戸数は131戸（前年同期比77.0%減少）となり、売上高は55億9百万円（前年同期比72.7%減少）となりました。

一戸建住宅部門では、長期優良住宅の耐震や省エネルギーなど4つの最高基準を超える高い性能をリーズナブルな価格で実現した企画型注文住宅「パワーホーム ～ Super High Quality & Good Price ～」と、「パワーホーム」のノウハウを生かした東北復興応援型住宅「フェニーチェホーム」を提供しています。当第2四半期連結累計期間における売上計上戸数は124戸（前年同期比2.4%減少）となり、売上高は35億22百万円（前年同期比18.1%減少）となりました。

管理その他部門の売上高は77億68百万円（前年同期比12.0%増加）となりました。

これらの結果、本事業の売上高は167億99百万円（前年同期比46.5%減少）となりました。なお、営業損失は16億18百万円（前年同期は営業損失7億97百万円）となりました。

③ その他の事業

その他の事業の売上高は39億26百万円（前年同期比8.3%減少）となり、営業利益は87百万円（前年同期は営業

損失23百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末に比べ31億90百万円減少し、1,700億74百万円となりました。たな卸資産は増加しましたが、現金及び預金、受取手形及び売掛金が減少したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ8億81百万円減少し、1,284億77百万円となりました。借入金や社債は増加しましたが、支払手形及び買掛金が減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ23億8百万円減少し、415億96百万円となりました。四半期純損失の計上、配当金の支払いにより利益剰余金が減少したことなどによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ50億45百万円減少し、242億21百万円となりました。

なお、新規連結による資金の増加が3億2百万円あります。

営業活動による資金の減少は、130億43百万円となりました。主な内訳は、仕入債務の減少101億円、たな卸資産の増加51億28百万円、売上債権の減少48億69百万円、税金等調整前四半期純損失の計上10億31百万円、流動負債「その他」に含まれる住宅事業の販売代理預り金・前受金などの減少18億68百万円です。

投資活動による資金の減少は、27億49百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出21億39百万円、投資有価証券の取得による支出2億95百万円です。

財務活動による資金の増加は、103億99百万円となりました。主な内訳は、短期借入金の増加60億58百万円、長期借入れによる収入95億90百万円、長期借入金の返済による支出70億74百万円、社債の発行による収入30億円、社債の償還による支出7億20百万円、配当金の支払額3億74百万円です。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

I 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、平成20年5月15日開催の当社取締役会において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針(会社法施行規則第118条第3号本文に規定されるもの)(以下「基本方針」といいます。)を、以下のとおり定めております。

当社はその株式を上場し自由な取引を認める以上、支配権の移転を伴う当社株式の大量取得提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様の意思に委ねられるべきものと考えております。また、当社は、大量取得行為であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを否定するものではありません。

しかしながら、大量取得提案の中には、①買付目的や買付後の経営方針等に鑑み、企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、②株主の皆様に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、③対象会社の取締役会や株主の皆様が大量取得行為の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するものも少なくありません。

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の継続的な確保・向上に資する者であるべきであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある大量取得提案を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではないと考えます。したがって、このような者による大量取得行為に対しては必要かつ相当な手段を採ることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

II 具体的な取組み

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成26年5月9日開催の当社取締役会において、当社株式の大量取得行為に関する対応策を、第65回定時株主総会における株主の皆様への承認を条件として更新することを決議し(以下、更新後の対応策を「本プラン」といいます。)、同定時株主総会において本プランを更新することの承認を得ております。

本プランは、当社株式に対する大量取得行為等が行われた際に、当社取締役会が株主の皆様へ代替案を提案し、あるいは株主の皆様がかかる大量取得行為等に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とするものであり、また、基本方針に沿って、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的としています。

本プランは、(i)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付、又は(ii)当社が発行者である株券等について、公開買付けを行う者の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け（以下、併せて「買付等」といいます。）を対象とします。

当社の株券等について買付等が行われる場合、当該買付等を行う買付者等には、当社取締役会が別途認めた場合を除き、買付等の実行に先立ち、買付等の内容の検討に必要な情報及び本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報や当社取締役会からの意見や根拠資料、当該買付等に対する代替案（もしあれば）が、当社経営陣から独立した者から構成される独立委員会に提供されます。独立委員会は、原則として最長60日間の検討期間を設定し、その間、買付等の内容の検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主に対する当社取締役会の代替案の提示等を行います。独立委員会は、必要があれば、外部専門家等の助言を独自に得ることができます。当社は、買付者等が現れた事実、買付者等から情報が提供された事実、独立委員会による検討が開始した事実等について、株主に対する情報開示を行います。

独立委員会は、買付者等が本プランに規定する手続を遵守しなかった場合、又は当該買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉の結果、買付者等による買付等が当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等であるなど、本プランに定める新株予約権の無償割当ての要件のいずれかに該当すると判断し、かつ、以下に記載する内容の新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、独立委員会規則に従い、当社取締役会に対して、かかる新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。また、独立委員会は、新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断する場合でも、新株予約権の無償割当ての実施について株主総会の決議を得ることが相当であると判断するときは、当社取締役会に、株主総会の招集、新株予約権無償割当ての実施に関する議案の付議を勧告するものとします。当社は、独立委員会が勧告等を行った場合、当該勧告等につき情報開示を行います。

この新株予約権は、1円（又は当社株式1株の時価の2分の1の金額を上限として当社取締役会が新株予約権無償割当ての決議において定める金額）を払い込むことにより、原則として当社株式1株を取得することができるものですが、買付者等による権利行使が認められないという行使条件が付されています。また、当社が買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項が付されており、当社がかかる条項に基づく取得をする場合、新株予約権1個と引換えに、原則として当社株式1株が交付されます。当社取締役会は、独立委員会の上記勧告を最大限尊重して新株予約権無償割当ての実施もしくは不実施の決議、又は株主総会の招集を行うものとします。当社取締役会は、上記決議を行った場合速やかに、当該決議の概要その他当社取締役会が適切と判断する事項について、情報開示を行います。新株予約権の行使又は当社による取得に伴って買付者等以外の株主の皆様が当社株式が交付された場合には、買付者等の有する当社の議決権割合は、最大2分の1まで希釈化される可能性があります。

本プランの有効期間は、平成29年3月末日に終了する事業年度に関する定時株主総会の終結の時までです。但し、当該有効期間の満了前であっても、(i)当社の株主総会において本プランに係る新株予約権の無償割当てに関する事項の決定についての取締役会への委任を撤回する旨の決議が行われた場合、又は、(ii)当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることとなります。

本プランの有効期間中であっても、新株予約権の無償割当てが実施されていない場合、株主及び投資家の皆様に直接具体的な影響が生じることはありません。他方、本プランが発動され、新株予約権の無償割当てが実施された場合、株主の皆様が、新株予約権行使の手続を行わないと、その保有する当社株式全体の価値が希釈化される場合があります（但し、当社が当社株式を対価として新株予約権の取得を行った場合、保有する当社株式全体の価値の経済的な希釈化は生じません。）。

III 上記の各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

前記IIに記載した本プランは、当社株券等に対する買付等が行われる場合に、当該買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が株主の皆様が代替案を提案するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と協議・交渉等を行うことを可能とすることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保するための枠組みであり、基本方針に沿うものです。特に、本プランは、株主総会において本プランに係る委任決議がなされることにより更新されたものであること、その内容として合理的かつ詳細な客観的要件が設定されていること、独立性の高い社外者のみから構成される独立委員会が設置されており、本新株予約権の無償割当ての実施等に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家の助言を得ることができるとされていること、有効期間が3年と定められた上、株主総会又は取締役会によりいつでも廃止できるとされていることなどにより、その公正性・客観性が担保されており、高度の合理性を有し、当社株主の共同の利益を損なうものではなく、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(7) 仕入及び販売実績

当第2四半期連結累計期間において、仕入実績及び販売実績の著しい増減はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	290,696,000
計	290,696,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	96,561,195	96,561,195	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	96,561,195	96,561,195	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	—	96,561	—	22,069	—	10,596

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社横浜銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目1番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	4,647	4.81
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町一丁目5番5号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	4,639	4.80
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	3,339	3.45
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	3,215	3.32
ナイス従業員持株会	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四丁目33番1号	2,739	2.83
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	2,295	2.37
平田 恒一郎	神奈川県川崎市幸区	2,265	2.34
パナソニック株式会社	大阪府門真市門真1006番地	2,101	2.17
吉野石膏株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	2,100	2.17
西村 滋美	東京都世田谷区	2,022	2.09
計	—	29,364	30.41

(注) 1. 上記のほか、自己株式2,741千株(2.83%)があります。

2. ラザード・ジャパン・アセット・マネジメント株式会社から平成26年9月1日付けで、大量保有報告書の提出があり(報告義務発生日 平成26年8月29日)、次のとおり株式を所有している旨報告を受けておりますが、当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
ラザード・ジャパン・アセット・マネジメント株式会社	東京都港区赤坂二丁目11番7号赤坂ツインタワー(ATT)新館	4,837	5.01

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,741,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 93,330,000	93,330	—
単元未満株式	普通株式 490,195	—	—
発行済株式総数	96,561,195	—	—
総株主の議決権	—	93,330	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2千株(議決権2個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が725株含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) すてきナイスグループ(株)	神奈川県横浜市鶴見区 鶴見中央四丁目33番1号	2,741,000	—	2,741,000	2.83
計	—	2,741,000	—	2,741,000	2.83

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人原会計事務所による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,363	24,297
受取手形及び売掛金	38,690	33,826
商品	8,197	9,561
販売用不動産	25,674	29,644
未成工事支出金	632	594
その他	5,660	5,854
貸倒引当金	△92	△47
流動資産合計	108,127	103,731
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,024	11,557
土地	32,241	32,443
その他（純額）	3,329	3,877
有形固定資産合計	46,595	47,878
無形固定資産	493	490
投資その他の資産		
投資有価証券	12,285	12,578
その他	5,935	5,568
貸倒引当金	△173	△173
投資その他の資産合計	18,047	17,973
固定資産合計	65,136	66,342
資産合計	173,264	170,074
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	42,904	32,808
短期借入金	28,661	33,957
1年内償還予定の社債	1,440	1,440
未払法人税等	590	389
引当金	1,508	1,346
その他	8,640	6,924
流動負債合計	83,746	76,866
固定負債		
社債	3,460	5,740
長期借入金	26,049	29,336
退職給付に係る負債	3,068	3,288
資産除去債務	75	76
その他	12,959	13,170
固定負債合計	45,613	51,611
負債合計	129,359	128,477

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,069	22,069
資本剰余金	15,651	15,651
利益剰余金	3,452	860
自己株式	△671	△672
株主資本合計	40,502	37,909
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,679	1,702
繰延ヘッジ損益	△3	5
土地再評価差額金	185	185
為替換算調整勘定	△908	△588
退職給付に係る調整累計額	342	307
その他の包括利益累計額合計	1,295	1,612
新株予約権	2	2
少数株主持分	2,105	2,072
純資産合計	43,905	41,596
負債純資産合計	173,264	170,074

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	124,623	104,830
売上原価	110,418	91,888
売上総利益	14,204	12,941
販売費及び一般管理費	※ 14,622	※ 14,429
営業損失(△)	△417	△1,488
営業外収益		
受取利息	23	25
受取配当金	84	120
その他	171	167
営業外収益合計	280	313
営業外費用		
支払利息	642	554
その他	166	58
営業外費用合計	809	612
経常損失(△)	△947	△1,787
特別利益		
投資有価証券売却益	23	-
補助金収入	-	758
特別利益合計	23	758
特別損失		
固定資産除却損	43	2
特別損失合計	43	2
税金等調整前四半期純損失(△)	△966	△1,031
法人税、住民税及び事業税	439	275
法人税等調整額	50	367
法人税等合計	489	643
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,456	△1,674
少数株主利益	17	70
四半期純損失(△)	△1,473	△1,744

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,456	△1,674
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	612	20
繰延ヘッジ損益	10	8
為替換算調整勘定	△68	320
退職給付に係る調整額	-	△35
その他の包括利益合計	554	314
四半期包括利益	△901	△1,359
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△918	△1,427
少数株主に係る四半期包括利益	17	67

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失 (△)	△966	△1,031
減価償却費	654	859
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△4	△45
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△147	△182
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	107	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	46
受取利息及び受取配当金	△108	△145
支払利息	642	554
有形固定資産除売却損益 (△は益)	43	2
投資有価証券売却損益 (△は益)	△23	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△803	4,869
たな卸資産の増減額 (△は増加)	5,583	△5,128
仕入債務の増減額 (△は減少)	△516	△10,100
その他	△2,097	△1,868
小計	2,363	△12,170
利息及び配当金の受取額	111	140
利息の支払額	△713	△520
法人税等の支払額	△434	△493
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,326	△13,043
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△731	△2,139
投資有価証券の取得による支出	△429	△295
投資有価証券の売却による収入	47	-
貸付けによる支出	△1,032	△2,137
貸付金の回収による収入	449	1,865
その他	△20	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,715	△2,749
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	8,726	6,058
長期借入れによる収入	10,011	9,590
長期借入金の返済による支出	△14,830	△7,074
社債の発行による収入	4,000	3,000
社債の償還による支出	△450	△720
自己株式の売却による収入	-	0
自己株式の取得による支出	△170	△0
配当金の支払額	△382	△374
少数株主への配当金の支払額	△62	△64
その他	△7	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,834	10,399
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	44
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,454	△5,348
現金及び現金同等物の期首残高	23,479	29,267
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	302
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 29,933	※ 24,221

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、ステキホームホールディングス(株)及びナイスホーム(株)を重要性が増したことにより連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

退職給付に関する会計基準等の適用

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法をポイント基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の「投資その他の資産」の「その他」に含まれる退職給付に係る資産が3億24百万円減少し、退職給付に係る負債が1億35百万円増加し、利益剰余金が4億43百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
顧客住宅ローンに関する抵当権設定登記完了等までの間の金融機関借入債務に対する連帯保証債務	4,448百万円	753百万円

2 当社は、運転資金の機動的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。当第2四半期連結会計期間末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
貸出コミットメントの総額	10,000百万円	10,000百万円
借入実行残高	一百万円	3,000百万円
差引額	10,000百万円	7,000百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
従業員給与・賞与	4,936百万円	5,159百万円
賞与引当金繰入額	903百万円	860百万円
退職給付引当金繰入額	363百万円	—百万円
退職給付費用	—百万円	244百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	30,104百万円	24,297百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	△170百万円	△75百万円
現金及び現金同等物	29,933百万円	24,221百万円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	383	4	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	375	4	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建築資材	住宅	計		
売上高					
外部顧客への売上高	88,945	31,394	120,340	4,282	124,623
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,544	135	1,680	399	2,079
計	90,490	31,530	122,020	4,681	126,702
セグメント利益又は損失(△)	1,671	△797	874	△23	850

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事業、ソフトウェア開発・販売事業、ホームセンター事業及び一般放送事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	874
「その他」の区分の利益	△23
セグメント間取引消去	42
全社費用(注)	△1,310
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△417

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	建築資材	住宅	計		
売上高					
外部顧客への売上高	84,103	16,799	100,903	3,926	104,830
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,269	107	1,376	508	1,885
計	85,373	16,906	102,280	4,435	106,715
セグメント利益又は損失(△)	872	△1,618	△746	87	△658

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事事業、ソフトウェア開発・販売事業、ホームセンター事業及び一般放送事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△746
「その他」の区分の利益	87
セグメント間取引消去	121
全社費用(注)	△952
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△1,488

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
1株当たり四半期純損失	15円39銭	18円60銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失 (百万円)	1,473	1,744
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失 (百万円)	1,473	1,744
普通株式の期中平均株式数 (千株)	95,761	93,821
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失が計上されているため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月12日

すてきナイスグループ株式会社
取締役会 御中

監査法人 原会計事務所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 松 木 良 幸 印

業務執行社員 公認会計士 六 本 木 浩 嗣 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているすてきナイスグループ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、すてきナイスグループ株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。